

[成果情報名] 集落営農の実施・未実施集落におけるソーシャルキャピタル比較

[要約] 集落営農に取り組むことができた集落は地域への期待や安心感といった「集落への信頼」の要素が高い。

[キーワード] 集落営農、ソーシャルキャピタル

[担当] 三重農研・経営植物工学研究課

[代表連絡先] 電話0598-42-6356

[区分] 関東東海北陸農業・経営

[分類] 行政・参考

[背景・ねらい]

集落営農に取り組むことは、参加農家にとって農地の保全や将来の農業経営に対する安心感、集落の結びつきや活力の向上など、経済のみでは測定できない効果もあると考えられる。しかし多くの場合、集落営農はコストや労働力等の経済・経営面を中心に評価され、安心感や集落の活力といった効果を定量化して評価した例は少ない。そこで、地域活力の測定等に用いられるソーシャルキャピタルの概念を用い、集落営農に取り組むことができた集落（以下実施集落）と集落営農未実施の集落（以下未実施集落）、それぞれの経営主と経営主以外の間のソーシャルキャピタルを測定し、集落営農への取組が集落の活力に及ぼす効果を考察する。

[成果の内容・特徴]

- 1 県内の集落営農実施集落 13（表 1）と未実施集落 12、計 25 集落において、集落内農家全戸の経営主と経営主以外の合計 2,717 人に対し、表 2 に示すソーシャルキャピタル（以下 SC）に関するアンケート調査を実施した。調査結果を実施集落経営主、実施集落経営主以外、未実施集落経営主、未実施集落経営主以外に分類して集計し、50 グループの集計結果の因子分析により抽出した第 1 因子を「集落への信頼に関する因子」、第 2 因子を「集落活動に関する因子」とした（表 2）。2 つの因子の因子得点を集落の「集落信頼指数」と「集落活動指数」として比較する。
- 2 各グループの「集落信頼指数」と「集落活動指数」により散布図を作成する。実施集落と未実施集落の間で比較すると、実施集落のほうが「集落信頼指数」が高い傾向がある。同様に経営主と経営主以外の間で比較すると、経営主のほうが「集落活動指数」が高い傾向がある（図 1）。
- 3 集落営農に取り組むことができた集落は地域への期待や安心感といった「集落への信頼」の要素が高いこと、また、集落の経営主は「集落活動への参加意識」が高いことが示される。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . この成果は、集落営農育成の参考とできる
- 2 . 本調査は現状のみの調査であり、集落営農の進展と SC 向上の因果関係までは明らかにできていない。今後、本調査の未実施集落について経年調査することで、因果関係も明らかにできると考えられる。

[具体的データ]

表1 集落営農実施集落の判断基準

集落営農実施集落の判断基準	具体的内容
1. 土地利用調整機能があること	生産調整を含む、農地調整の機能がある
2. 担い手が明確になっていること	認定農家やオベ組織との合意ができている
3. 担い手への農地集積のルールが存在する	作業料金や畦畔管理のルールの明確化
4. 地域ビジョンが存在する	規約、スローガンなど

注1 三重県農水商工部資料

表2 ソーシャルキャピタルに関する調査項目の因子分析の結果

質問内容	因子No1	因子No2
	集落信頼因子	集落活動因子
集落は企画を実行できる力があると思うか	0.9030	0.2348
集落のまとまりがいいと思うか	0.9028	0.1275
熱心なリーダーはいると思うか	0.8579	0.0281
地域活動は盛んと思うか	0.8468	0.3041
集落の人は信頼できると思うか	0.8338	0.0805
若年層の活動は積極的と思うか	0.7395	0.0897
自立的な問題解決能力があると思うか	0.5647	0.3448
集落に対する愛着や誇りがあるか	0.4716	0.3836
共有林の管理活動へ参加しているか	0.2359	0.6044
祭りなどの行事へ参加しているか	0.2343	0.6985
農業などの寄り合いへ参加しているか	0.2177	0.4306
農地保全活動へ参加しているか	0.2058	0.4996
葬式などへ参加しているか	0.1379	0.8527
墓地の清掃等に参加しているか	0.1320	0.8755
水路や農道の整備・清掃等へ参加しているか	0.1115	0.7828

因子No.	固有値	累積寄与率
因子No. 1	8.431	56.21%
因子No. 2	2.742	74.49%
因子No. 3	0.694	79.11%

注1 調査項目は、内閣府の調査(2003 内閣府国民生活局)、劉の調査(2004 農村計画学会誌, 6, 193-232 『山間地域における住民活力の評価に関する考察』)を参考とした

注2 集計は各項目につき、5段階評価で回答を求め、「そう思う」=5、「ややそう思う」=4、「どちらでもない」=3、「あまりそう思わない」=2、「そう思わない」=1のポイントを集計し、回答者数で割ったものをその集落のデータとした。

注3 調査年度は平成20年度

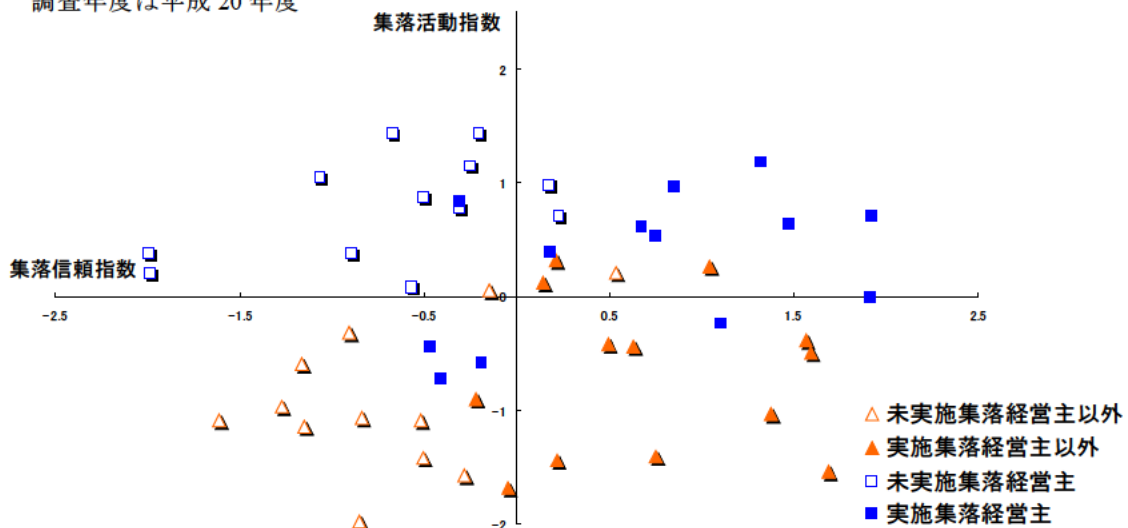


図2 実施集落、未実施集落別の経営主と経営主以外の比較

注 表2で抽出された2つの因子の因子得点を、「集落活動指数」と「集落信頼指数」とした。

[その他]

研究課題名：みんなで挑戦三重の集落営農育成事業

予算区分：県単

研究期間：2008年度

研究担当者：山端直人、糀谷 齊

注 表2で抽出された2つの因子に含まれる各設問の得点を基準化したものの平均値を、各集落の「集落活動指数」と「集落信頼指数」とした。